

令和6年度シリコンバレー研修報告

研修期間：令和6年8月15日（木）～8月22日（木）（6泊8日間）

参加生徒：3年生15名、4年生15名

研修の目的：

- (1) シリコンバレーにある大学、企業および研究機関等での研修を通して世界に貢献するためのイノベーションやアントレプレナーシップについて学び、地球市民・グローバルリーダーとしての意識や資質を高める。
- (2) 創造的な分野で活躍する社会人や、そのような分野で将来活躍すべく高いレベルで学んでいる学生から直接話を聞き、交流する機会を通じて将来の仕事や進路について考える。
- (3) アメリカの教育や文化、自然または都市景観に直接触れることにより、視野を広げ、感性を豊かにする。



研修を終えての感想（一部）：

○この研修で心に残った話は大きく分けて二つあります。一つ目は心のコンパスです。話の内容は、自分のやりたい事、好きなことの方角性が定まっているとそれに関連する人、知識、情報が勝手に集まってくるといふもので、だからこそ心のコンパス（自分の目指す方向性）が合っただけさえすれば何をしても問題は無いということでした。この言葉は将来のことさほど明確に考えておらず、見通しのもててない私にとって考えすぎる必要はないと気づかせてくれた大事な言葉になりました。二つ目は「失敗を恐れないこと」です。今回お話を聞いた人たちは皆どこかで挫折をしていてそれを恥ずかしがらずに話してくれました。失敗するかどうかはやってみないと分からないからとりあえずやってみる。やってみて失敗したら恥ずかしいけどそこに来たから見られる景色もある、やらないよりも後悔が絶対に残らない、

やろうか迷っている時間ももったいない、という話を伺って、やらない方がデメリットが多くて悩んでいたらチャンスはどこかに行ってしまうと思うようになりました。これからは即断即決でそれで失敗してもそこから得られるものはあると思っていこうと思います。今回話を聞いた人に総じていえることは、自分の気持ちをいかに大切にすべきかということです。話を聞いた人たちは皆、海を渡りいつ潰れるかも分からないという状況で生き生きと仕事をしていました。そんな彼らは様々な困難





もあつたはずだし、私には想像もつかないような勉強、学びをしてきたはずです。しかし、彼らが私達にした話は自分の苦勞話でも、勉強の大切さでもなく、自分の好きなこと、やりたいことを見つけそれを自分が認めてあげることでした。きっと考えの及ばぬような大変な道を辿ってきた人が口を揃えて自己のマインドについて言っているのだから、これからの人生の上で自分の気持ち以上に大切なものはないのだと感じました。この研修で心に残った出来事は異国の地で今まで関わることのなかった様々な人と触れ合うことが出来たこと

です。シリコンバレー研修のメンバーは正直、あまり話したことの無い人もいて微妙かと思っておりましたがそんな人とも1週間でもとても仲良くなることができ、「絆」を学びました。ホテルの朝食の席では同じホテルに泊まっていた司祭の人と仲良くなることが出来ました。また、ショッピングセンターではたくさんの人とお話を伺うことが出来ました。彼らには国籍も年齢も見た目も関係ない「フレンドリーさ」を学びました。こんかいこの研修を計画してくれた先生、Kさん、B-bridgeの皆さんには自由と対等さを与えてもらいました。彼らからは自由に伴う「責任」と本気の相手と対等であるからこそ見せない失礼な「本気」を学ぶことが出来ました。与えられた自由と対等さのおかげで話を聞きに言った人たちとスピーカーとオーディエンスという関係だけに捕らわれず、連絡先を交換したり仲良くなることでより貴重なお話を聞くこともでき、「人のツテ」がどれほど大切であるか学ぶことが出来ました。自分の存在はちっぽけで他の人の手を借りないと出来ない。今回も先生、両親、など様々な人のおかげで素晴らしい経験をする事が出来ました。この研修に関わったすべての人に感謝します。ありがとうございました。この経験は私の心に一生残るでしょう。将来はこの経験を活かし世界で羽ばたく私を見て良かったと思ってもらえるように頑張ります(出世払いします)。この機会を私に与えてくれてありがとうございました。(3年生)

○一番印象に残っていることは、自分が居心地悪いと感じる環境に身を置いてみるという考え方を教えてもらったことです。今まで、自分の苦手な人とは関わらないようにしようと思っていたのですが、わざと嫌だと感じる場所に入ると良いという事を知り、驚きました。自分が嫌だと感じる人というのは自分とは価値観が違う人ということらしくて、苦手な人と関わることをなるべく避けたい私にとって新鮮な感覚でした。しかし、このことを知ったおかげで、人間関係において誰が悪いとかは無



くて、ただ価値観が違うだけなんだと知ることができて本当に良かったです。さらに実際にシリコンバレーに行き、たくさんものを見ることで世界の最先端はこんなにも進んでいるのだと知ることができました。自動運転の車を初めて見て、本当に人が乗ってないのに動いていて驚きました。そこで聞いた話によると日本にも自動運転ができる技術はあるそうです。しかし行われていないのは、失敗したらどうしようという考えがあるからで、なかなか実行できていないそうです。失敗したらどうしようという気持ちは本当に理解できるのでこんなにもどんどん進めることができるなんて本当にすごいと思いました。(4年生)



○この研修では、様々な人の話を聞くことができ、主に4つのことを学んだ。第一に、シリコンバレーで活動している日本人の方々は、どなたも、自分独自のマインドセットを持っているということを知った。スタンフォード大学のMBAに通っている方は、日本の悪い点として、組織が個人の積極性をブロックしていると話していた。日本での世間一般や常識にとらわれない、自分の軸となるマインドセットを持つことが重要だと思った。第二に、自分の今後の人生設計において重要なことを学んだ。まず、「将来の夢」

として何らかの職業を限定しなくても、自分の人生の大まかな方向性に気づくだけでも十分であるということが分かった。この内容をおっしゃっていた方は、大きな自分の目標に対して、例えば教育などの分野や職業などはその手段でしかない、とも話されており、将来の夢が明確ではない私は、大きな方向性さえあればいい、というのを聞いて少し救われたような気がした。第三に、早め早めの行動が重要であるということを知った。ドアダッシュに務めている方は、「早めに戦略を立てる」ということが大切であるとおっしゃっていた。その方の経験談において、大学在学中に起業したり、アメリカの企業のオファーによって渡米するなどの行動はすべて即決した、と話されていた。このことを言い換えると「行動力」であるが、入念な作戦を練る、という行動もすぐにできるようなマインドセットを持ちたい。第四に、言語以外のコミュニケーションについて考えさせられた。スタンフォード大学のブルースさんのデザインシンキングについての講義では、人が見てイメージしやすいようにプロトタイプを作ることの重要性についても学んだ。また、ショッピングセンターでのイノベーションチャレンジにおける現地の方がたへのインタビューでも、言語だけでなくジェスチャーや擬音などでの意思疎通を図ることができ、それらの経験は、五感を通じたコミュニケーションの重要性を感じさせてくれた。最後に、この研修を通じて、多くの現地の日本人の方が、日本の人々はほかのアジアの国々に比べて、チャレンジ精神がないとおっしゃっていた。私は地球市民としてグローバルに活動できるように頑張りたい。(3年生)

○8日間にしては濃すぎて伝わりきらないかもしれないのですが心に残っているのですがその中でも



特に心に残っていることをお話しします。まずは、人や文化に積極的に触れられる機会がたくさんあったことです。今まで海外で英語を使って話すことはなかったのでイノベーションチャレンジで多くの知らない海外の方に話しかけたり、自分で対話しながら食事を買って食べたのは本当に衝撃的でした。最初に話しかけるのは恐ろしく、緊張したけれど本当に皆さんフレンドリーでとても温かい気持ちになりました。特に近くのスーパーの店員のJと長時間英語で話し、連絡

を取るくらい仲良くなれました。これらの体験は楽しかったのはもちろん、意外と言いたいことはわかるし、伝えられるという英語を話す楽しさや自信にもつながりました(もちろん完璧ではありませんが)。人以外にも多くの文化の違いを五感で感じられたこともよかったです。食品、道路、その他さまざまなもののスケールの違い、トイレの汚さ、信号、ホテルのアメニティ、気温、値段、土地の使い方、接客、味、言語、時間の感覚(5分で終わるといわれたことが15分かかったり)などなどたくさんメモしてあるのであげだしたらキリがありません。とても刺激的でした。二つ目は現地の企業や大学の人のお話です。最初に聞いたときはスタンフォードで学んでいた、アメリカで起業したりと、自分とは違うさぞすごい人なんだろうかと身構えていたのですが実は全員が特別な人間というわけではなく本当に自分たちと同じで不安も抱えるし、失敗もたくさんしている人なんだとわかりました。その方たちがやってきたことや現地のことをたくさん聞いているうちに海外で働くという自分には今までなかった選択肢が現実のものとして現れたと思います。自分は将来やりたい仕事が明確には決まっておらず、そこに不安を覚えていたのですが、スタンフォードに通うTさんに言われた職業がわからなくても自分がどういう人でありたいのか、大切にしているものが何かという方向(コンパス)に進めばいいという言葉がすごく助けになりました。このような人たちとつながりを持つことがこの研修の良いところの一つかなと思います(実際に数人とはLINEを交換させていただきました)。わたしは普段ここまで大げさな言葉を使うことはないのですが今回の研修に関しては本当に人生が変わるほどの貴重なものでした。起業やモノづくり、海外で働くことに興味のある人は絶対に行くべきだと思います。また、そうでない人も視野が嘘みたいに広がる体験ができると思うので将来に悩んでいる人(自分もそちら側でした)は参加してほしいです。(4年生)





○今回の研修で最も印象に残っているのは、シリコンバレーで働く人たちは、皆共通して向上心が高いということです。常に自分の視野拡大、好きなことへの追求を求め、コンフォートゾーンからあえて抜け出す、という考え方に感化されました。普段、仲のいい友達や好きなことばかりやってしまい、苦手なことや苦手な人を避けて生きるのが自分にとって最も幸せな道であると信じきっている部分がありました。しかし、苦手なことや苦手な人に出会うことで、自分の視野を広げられる存在であるという見方ができ、苦手

な存在に対するポジティブなイメージを持つことができました。また、高校時代にやっておくと良いことについてさまざまな人に尋ねてみると、「自分のやりたいことが何かを見つけておく」と教えてくれた人が多い気がしました。シリコンバレーにいる人たちは、皆が学生時代からそのことを突き詰めた人ばかりでなく、成り行きで、という人も多くいました。そういった方たちが、後悔していることは、もっと若いうちからやりたいことを見つけておけば良かったということで、私はその教訓を生かして、高校生の今の段階でちゃんとやりたいことを見つけておきたいなと思います。その「やりたいこと」にもシリコンバレーと日本で解答の仕方に違いがあり、日本では職業を答える人が多いように感じますが、シリコンバレーでは、こういう大人になりたいと答える人が多いです。職業と答えることに批判的な意見を持つわけではありませんが、こういう大人になりたい、という夢を持つ方が、職業に軌道修正をしやすいし、本当に自分がやりたいことを見つけられる気がしました。今回の研修で、海外に俄然興味が出てきて、日本の大学受験と両立できるということで海外の大学にも目を向けて見たいなと思いました。その時に、日本の大学受験で無駄に感じてしまう勉強を避けるためという理由ではなく、自分のやりたいことに見合うかどうかで受験を検討したいなと思います。今必死に勉強していることは、将来なんの役に立つのだろうと疑問に思ってしまうことがよくありますが、現地の方は、後悔しない選択をするためには知識をつけることだ、と教えてくださいました。そのため、受験勉強から逃げずに、知識をちゃんとつけることを積極的に捉えていきたいなと思います。活動の中で印象深いものは、イノベーションチャレンジです。この結果を元に今後発表があるということで、単純な興味ではなく、発表しやすい質問を考えようと必死で、私たちの班は質問を考えるのにとっても時間がかかってしまいました。私は時間が迫ると焦ってしまうため、急かすような発言を多くしてしまったのは反省しています。後から班の人に怖がられていたと聞いて、もっと発言には気をつけようと思いました。とにかく周りよりはるかに少ない時間でどうこの課題をこなすかに必死だった私は、解答の母数を増やすため、初めから1人でとにかくたくさんの人に声をかけ続けました。初めての場所で話す言語が違う人たちの中に1人で飛び込んで、とても心細かったし、話しかけて断られた時は、とても辛かったです。しかし、多くの人はちゃんと質問に答えてくださり、それから派生して少し会話ができたり、しかも自分の拙い英語で、です。言語は完璧じゃなくても通じるということを実感でき、そこから自信がついたように感じます。リクエストタイムでショ

ショッピングモールに行った時も、店員と、物怖じせずにスムーズに会話することができたり、日本では絶対できない経験ができて、本当に楽しかったし、自分の自信につながって良かったなと思います。観光もとても楽しかったです。街のベンチで普通にキスをしている人がいたり、派手なファッションで堂々と歩いている人がいたり、ただ街を歩いているだけで日本との違いを感じました。自分のやりたいことをやる、人のことをあまり気にしていないのが、いい意味で過ごしやすそうだなと思いました。野球場は荷物の検査や金属探知機のゲートを通らされたり、と厳格なものであるのと対照的に、入ってみるとみんな好きなように声を上げて応援したり、踊ってみたり、心から自分を楽しんでいるように見えて羨ましくさえ感じました。八日間、本当に濃い一週間であつという間でした。毎日が学びだらけで、いい刺激を受けて、とても楽しかったです。視野が広がった分、選択肢が増えて進路について悩みが大きくなりました。これから、自分が本当にやりたいことは何なのか見つけていきたいと思います。(4年生)



○僕は今回の研修を通して、とにかく、将来働くことがとても楽しみになりました。ただ日本で成長していたら、言われたとおりに勉強し、大学を目指し、企業へ就活を行う、そんなテンプレートに従うことに自分はなると思っていたのですが、この研修で「型にはまらない」ことがいかに大切かを学びました。どんなことでも、疑問に思ったら聞く、調べる、感じることの大切さも身を持って実感しました。そして、何より、この研修で出会った数々のお話をしてくださった方々は、みな多くの努力をして、自分の最もしたい仕事を手に入れていました。自分も、彼らのようになれるよう、努力を続けていきたいです。また、この研修で、「イノベーション」の真の意味をようやく理解できたと思います。ただインターネットで調べると、「革新」や「刷新」、「新機軸」などというような言葉しか出てきませんが、実際に多くのイノベーションを肌で感じ、どんなことにも「Interactive」で「Proactive」に食らいつき、「非常識」である新しい価値観を見出すことだと学びました。「自分を最大限に表現する大切さ」も学びました。そして、現地の人へ英語を使って実際にインタビューをする経験を通して、英語にも改めて自信を持つことができ、多文化にも触れることができました。とにかく、とても刺激的で、人生を変える経験になりました。(3年生)

○私はこの研修を通して多くのことを学んだ。1日1日に自分の将来を考える機会があり、とても充実した研修だった。1日目私はアメリカに到着して研修前オリエンテーションで B-Bridge の皆様から研修での心構えを学び研修での目標を決めた。私は、この研修に自分の将来の選択肢を広げようという理由で参加した。B-Bridge 方からこの研修では Interactive (双方向に) Proactive (積極的に) この2つを大切にしたいことをどんどんとし、周りを見渡し、様々なことに気づくことが大切だということを見せて

いただき研修初日、私は自分のやりたいことをたくさんしようととても意欲が湧いてきた。2日目はB-BridgeのMさんからシリコンバレーについてやこの場所に住む人の物事の考え方を学んだ。Hさんが現在に至るまでに大切にしている考え方を聞き、私は衝撃を受けた。特に印象に残ったのは、何事もまずはエイヤーで実行す



ることだ。エイヤーで物事を実行することでスキルより時に大切になることがあるマインドを身につけることができると分かった。また、日本はシリコンバレーにも負けない技術力を持っているがシリコンバレーは日本とは異なり短い期間で人の入れ替わりが激しく、イノベーションが次々に起こされているということが分かった。それゆえにシリコンバレーには、全米のベンチャー企業に投資をする人たちの30%がいて、新しくこの地にきた人でも行動を起こせば企業をし新たなアイデアを生み出しやすくなっていると分かった。そして、シリコンバレーの企業のエコシステムの中で起こっている成功と失敗は紙一重であり失敗することの大切さも理解することができた。次にDr.Bruce Patonにお越しいただいてデザイン思考を学んだ。0から1を生み出すイノベーションを起こす上で大切な考え方はまずはアイデアを広げ仲間と協力しながらアイデア絞っていくということが大切だと実感し、プロトタイプを利用して、そのアイデアを伝えることの大切さも分かった。午後には、AppleやGoogle、コンピュータ歴史博物館を訪問し世界的な企業の雰囲気やシリコンバレーでコンピュータが発展していった歴史を学ぶことができた。3日目はスタンフォード大学に訪問した。スタンフォード大学のMBAを卒業なさって現在起業をしていらっしゃるTさんとIさんのお話を聞いた。What matters most to you and why?というスタンフォード大学のMBAの入学時のエッセイから話しが広がり海外の大学に通うためにできることや本当に自分のやりたいことを見つけることの大切さを学んだ。日頃から自分の良いところを探し、後期課程では



何かすごいことをするより人のためになることができるかを意識して生活していきたいと思った。そして、その上でなぜ自分は貢献したいのかということを忘れないようにすることが大切だと分かった。また、お二人やB-Bridgeの方のお話を聞き学校でのFEWCの研究もなぜ自分はこの問題を解決したいのかという意識を持って研究をすることが大切だと改めて認識した。もし自分が海外の大学に進学したいとなった時にはFEWCの研

究では「個人の体験から広げ→大きな目標→そしてそのために何をしてきたか」が大切だということも分かった。午後には、スタンフォード大学内にあるショッピングセンターでチームのメンバーとイノベーションチャレンジを行った。私たちのチームは、「外国人の方の知っている日本語は?」というテーマで調査を行った。この調査を通して私たちは、自らに大きなイノベーションを起こすことができたと思う。日本でもしたことのない公共の場で人に話しかけるインタビューを英語で行うということはとても難しいことではあったがヒロさんが教えてくれたエイヤーの精神で話しかけると断られた人はいたもののほとんどの人が笑顔でインタビューに答えてくださり、終わった後にはもっと英語で話したかったという気持ちになっていた。これは私たちにとっての大きな自己のイノベーションだった。4日目は、サンフランシスコのベイエリアを見学し、その後 MLB 観戦をした。ベイエリアの見学では、霧で橋が見えないなどのこともあったがサンフランシスコの天候、家、人々の雰囲気を感じることができた。そして、この研修で一番楽しみにしていた MLB 観戦では、アメリカの応援スタイルに驚き、迷子になりそうになりながらも現地の人の娯楽を体感できた非常に貴重な経験だった。スクリーンに私たちを歓迎される文章が映し出された時にはとても嬉しかった。



5日目は、シリコンバレーでエンジニアとして働く H さんのお話を聞き午後は Draper university に行き U さんのお話を聞いた。H さんからはグローバルなキャリア思想やアメリカの待遇の良さ、不要な人材のいないアメリカの物事の即決性のメリットを学んだ。そして、将来アメリカで働きたいとなった際のビザの戦略の大切さや自分が好きなことを通して百万分の一の希少な存在になること、自分が心地よくない環境に身をおくこと、自己を今の年代から英語でアピールすることなど多くのことを健太さんの実



際の経験などから教えていただき自分の将来に無限の可能性を感じることができた。貴重なレクチャーだった。また、Draper University の見学や上野さんのお話から、世界中から多くの人が集まり失敗を繰り返して成功を掴み取っているということを実感し、しぶとく行動し続けることの大切さを学んだ。また、留学する際は、ただ英語を学ぶことに加えて日本ではできない学びができる国を選ぶことが大切だと分かった。6日目は、チームで行うイノベーションチャレンジのリクエストタイムがあった。

私たちのチームはウーバーを利用しサンノゼ日本町に行った。日本町で私たちは、アメリカの日本町での日本文化の伝わり方を調査した。その場所には、日本のスーパーがありアメリカ 6 日目にして日本で売られているポテトチップスなどを見た時はとても嬉しかった。また、サンノゼにあるお寺にいた 99 歳の日本人の方のお話を伺うことができアメリカで戦争中日本人が収容所に入れられたことや終戦後日本町を作った貴重な歴史をお聞きすることができた。お昼には、日本料理やでカリフォルニアロールやカツカレーを食べて日本文化をアメリカでも感じることができると感動した。サンノゼ日本町では、食文化などは、日本の味とほぼ変わらず日系のアメリカ人などの方々がそれらの文化を継承し続けているのだということを感じた。午後には、ホテルでイノベーションチャレンジの成果報告会があった。私たちの班では大きく二つイノベーションを起こすことができた。それは、自己のイノベーションと新たな日本の製品ということ伝えるマークの開発だ。私たちは、アメリカ人の生活の中にある日本製品をもっと海外の方に知ってもらうために日本の製品に貼る新たなマークを開発した。しかし、これからイノベーションを起こす際には現実味はあるが常識から外れたものをさらに考えていきたい。また、相手を引きつけるためのプレゼンはどのようなものなのか考え、定量調査を大切に目標を明確にしていけると良いと学んだ。この研修では、私はチャレンジをし、行動し続けることの大切さを学んだ。そして、新たな出会いを大切にチャンスを広げていくことが大切だと分かった。私は、この夏アメリカで約 1 週間過ごし仲間と共にスーパーに行き未知の食べ物や謎のドリンクを飲んだり挑戦し続けた 1 週間だった。スーパーの店員 J と交流を深められたことはこれから一生の付き合いになっていくだろうと思う。これからも私はこの 1 週間で学んだことを生活に生かし「しぶとく」をキーワードに挑戦し続けていきたい。(3年生)

